

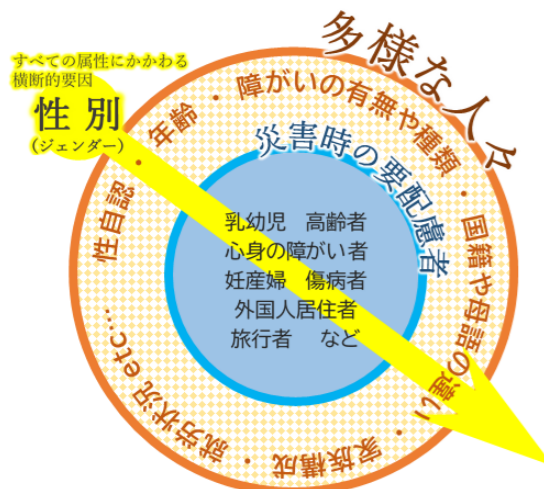
# 共同参画だより



- ▶ 9月です、防災の季節です。
- ▶ 自然の脅威も怖いけど、もっと怖いのは…。
- ▶ チェックシートの中身をチェック！ほかに必要なものは？

## 9月です、防災の季節です。

9月10日に防災シンポジウム「防災 JOSO2023」が開催されました。「防災」そして「男女共同参画」という、社会において大変重要な2つのテーマの関係性について学ぶことのできる大切な機会であり、参加者からも「もっと聞きたかった」「大変ためになる講演でした」等のお声をいただきました。今号では男女共同参画を防災の視点から考えていきたいと思ひます。



すべての人に降りかかる災害の脅威ですが、それにより発生する困難の種類や大小はまったく一律ではありません。「すべての人」の中には実に様々な多様性があり、とても十把一絡げに語ることは不可能です。性別、性自認、年齢、障がいの有無や種類、国籍や母語の違い、家族構成、就労状況など、並べれば尽きることがありません。その中でも災害発生時の避難行動の際に特に支援を要する方、避難生活で配慮・支援が必要な方を「要配慮者」と位置付けしており、乳幼児、高齢者、心身の障がい者、妊産婦、傷病者、外国人居住者・旅行者などがこれにあたります。そして、ここまで述べてきたあらゆる属性の人々すべてにかかわる横断的要因が性別（ジェンダー）となります。「要配慮者を中心とした多様性へ配慮する視点」と、「ジェンダーへの視点」という2つの要素が被災者支援でとりわけ重要となるのです。

性別を身体的な性として一義的に見た場合、男性・女性それぞれが社会の人口の半数を占めているということになります。このことだけでも、災害時には少なくとも二つの性差を前提とし、これに配慮した支援や避難所運営を行うことが必須であるのは明らかです。しかし現実には、これまで国内で発生した大規模災害に関する報告や検討の中で、こうした性差に対する配慮、そして要配慮者への支援が充分に行われていなかったことが課題となっています。内閣府の資料『東日本大震災における災害応急対策の主な課題』の中では、「問題の背景としては、**防災・震災対応に女性の視点が入らず、配慮が足りないことや、意思決定の場に女性が参画していないことが挙げられる。**」という分析がなされ、「地域防災計画、地域復興計画や避難所運営等の意思決定の場に女性が参画できるよう、また、障がい者、高齢者、子どもを含めた地域住民の視点に立った対応ができるよう、地方防災会議の構成等について見直しを行うべきである。」との見解が示されています。人口の半分を占めている女性が、社会を守るための重要な計画に携わることは極めて当然と言えるのですが、実際はそうでなかったのです。同じように、あらゆる要配慮者およびその家族といった「当事者」の意見を反映させることが当然であり、それをせずして充実した計画を練り上げることは不可能なのです。

## 自然の脅威も怖いけど、もっと怖いのは…。

災害が発生した時、「みんなが大変な時だから、わがままは言えない」との考えで、自分やその家族に起きている困難に対して声を上げられずに飲み込んでしまうことがあります。確かに私たちが実際に経験した混乱を思い返せば、そういった心理状況は大変覚えのあるものです。しかしこれによって、最悪の場合では助かるべき命が助からずに災害関連死に至るなど、絶対にあってはならないことです。また、災害時の悲しい現実として、女性や子どもに対するDV・性暴力という信じがたい卑劣な行為の実情が報告されています（※1）。被災者・支援者等立場を問わず両方が被害者にも加害者にもなっており、いずれの場合も事実が表面化されにくいと指摘されています。中でも、避難所や仮設住宅等のコミュニティで居場所を得ること・支援を受けることへの対価として行為を強要される「対価型性暴力」というケースには怒りを禁じ得ません。こうした被害を訴えることが空気の読めないわがままとして黙殺されるような避難環境は、絶対に繰り返してはならないのです。

自然災害は天災ですが、災害時に増加する人権侵害行為や、支援を要する声に耳を傾けなかったことで発生する不具合は人災と言えます。そのような事態を防ぐために、災害が実際に起こった時ではなく、起こる前こそが重要な期間となります。あらゆる多様な社会要因とジェンダーの中で日常を送る当事者たち自身が話し合い、意思決定することのできる防災と防犯のしくみを築き上げることで、有事に備えていかなければなりません。すべての人が何らかの社会要因の、そしてジェンダーの当事者です。当事者たちは自分や家族を守るため、遠慮せず主体的に防災計画に関わっていくことが何より大切なのです



「防災の事は誰か偉い人が決めてくれるよね」というスタンスでは、あなたや大切な家族を守ることはできないですよ。

（※1）『東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する事例調査』、東日本大震災女性支援ネットワーク、2014

## チェックシートの中身をチェック！ほかに必要なものは？

内閣府男女共同参画局では、令和2年5月に「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」を決定しています。地方公共団体向けのガイドラインですが、この中では物資の備蓄・避難所運営・応急仮設住宅や復興住宅開設についての具体的な配慮を示したチェックシートが盛り込まれています。それぞれで要配慮者とジェンダーを念頭に置いた内容となっていますので、家庭での日頃の備蓄や行動確認に役立てることができます。ぜひ自分や家族を思い浮かべて、ライフラインや物資が供給されない状況を想像しながら目を通してみてください。ここに書かれている内容で充分でしょうか？

備蓄  
チェック  
シート⇒



避難所  
チェック  
シート⇒



仮設住宅  
チェック  
シート⇒



ガイド  
ライン  
全文 ⇒



もちろん、ここに示されているのはいくつかの例にすぎません。様々な多様性がある中で、自分や家族が持つ固有の社会要因のすべてに備えるためには、一人一人が個別に考え行動しなくてはなりません。身を守るため、日々の備えを真剣に見つめ直すことから、あなたのプライベートな防災計画を始めてみましょう！